

# 認知症テーマに3氏解説

東北大と読売新聞東京本社が共同で企画した講演会「市民のためのサイエンス講座2014」が29日、仙台市青葉区の市福祉プラザで開かれた。「ここまでわかった認知症予防とケア」と題して、認知症の基礎知識から最新の研究成果まで、同大大学院医学系研究所の目黒謙一教授ら3人の専門家が講演。約300人の参加者が、真剣に聞き入った。

目黒謙一・東北大大学院教授

## ボケても安心な社会に

目黒教授は認知症について「脳の病気によって認知機能が低下し、日常生活に支障を来した状態」と定義。



認知症をテーマに講演する目黒教授（29日、仙台市青葉区で）

ントを挙げた。

さらに「アルツハイマー病や脳血管障害など、認知症の主な病気について、原因や特徴などを解説。頭や身体を使う活動は、生活の満足度を向上させるもの、認知症予防に関して

木之村重男・画像医学と脳健診診療所長

## 生活習慣の見直しを

NPO法人「画像医学と脳健診」の診療所（仙台市）脳血管性認知症の原因とな

仙台市太白区、元介護職

員菅原由美さん(60)「認知症の分類がよく分かった。

## \* 参加者の声

認知症は、症状であり、原因となる病気は様々であるということは知っていたが、改めてはつきりと教えてもらい、とてもためになった。ぜひまた聞きたい」

「分類がよく分かった」  
「食事に気をつけたい」

仙台市若林区、主婦大友しげ子さん(73)「認知症について、これまで私が持っていた知識は、かなり間違っていたことが分かった。テレビなどの情報だけでなく、正しく知ることが大切

だと思った。認知症のケアについては、同じ目線が大切だと感じた」

また、医療や介護の専門家の知識と善意が、認知症の人に対する押しつけにつながる心配があるとして、「その人」に「何ができるかではなく、その人」と語りかけた。

る脳卒中の予防について講演した。

日本人が寝たきりになる原因の6割を脳の病気が占めることを示し、「認知症のうち、脳血管性認知症は

山崎英樹・いずみの杜診療所医師

## その人の苦勞を知る

いずみの杜診療所（仙台市泉区）の山崎英樹医師は、認知症になった人の視点から、ケアのあり方について語った。

まず、認知症は体のマヒなどと違い、一見しただけでは分かりにくい「見えざ

20〜30%で、検診である程度見つけられる」とした。脳卒中のうち、動脈瘤が破裂して起きるくも膜下出血は、「高血圧、喫煙、過度の飲酒などが要因」と説明。

脳の血管が詰まる脳梗塞や、脳の血管が破れる脳出血は「高血圧や脂質異常症などの治療と、喫煙・飲酒習慣の見直しや体重のコントロールが重要」と話した。